

大学院カリキュラム・マップ

【ワークシート: DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

高度教職実践教育プログラム

ディプロマ・ポリシー(DP)

【1】学習教育目標(1)

よりよい問題解決のためには、その問題に応じた形で合理的(論理的・客観的・共感的・多面的理解を含む)かつ反省的に問題を捉え、解決策を探索・策定し、実行し、その結果をきちんと振り返ることによって次の問題解決に生かしていく、という汎用的な問題解決の流れを意識しながら教育活動を行うことにより、未知の問題に対しても適切に取り組める

1) 新しい学びの指導に長け、将来のリーダー候補となる初任教員
 2) 学習支援力や生徒理解力に長けた中堅教員
 3) 職場内外の人間関係調整や企画力に長けた教員を育てます。

厳正な評価を各授業科目で行った結果、共通科目20単位、選択科目10単位以上、教育実習10単位以上、課題研究8単位の計48単位以上を修得した者に対し、修了を認定し、教職修士(専門職)の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー(CP)

【2】学習教育目標(1)を達成するための取組
〈授業の構成(教育内容・方法)、科目間の順次性・関連性、科目名〉

教職大学院で開講する授業科目は、そのすべてにおいて、問題や対象を合理的かつ多面的に捉える力、自らの行動の結果や児童の様子などを反省的にとらえる力を高めることを念頭に置きながら授業を展開します。

そのために共通科目(必修)は、現代における教育課題に対応できる高度職業人として必要な知識を実践的に学ぶ科目(教育課程編成の課題と実践、教授・学習の課題と実践、生活指導・生徒指導の実践と課題、学級経営の実践と課題、学校改革の実践と課題、学校教育・教員のあり方の課題と実践)と、沖縄県の教育課題に関わる問題や理論について深く学んでいく科目(指導と評価の課題と実践、思考・判断・表現力育成の課題と実践、学校不適応への実践と課題、沖繩の学校と社会)からなります。これらの科目では、理論と実践の融合を強く意識した教員養成を担保するため、授業内容に関連した課題を学生が出し合うことを出発点とします。また授業後半では、模擬的な作成演習をとって、実践的に学ぶ形となっています。

1年前期は、これらの講義+演習と並行して観察実習(課題発見実習I)を10回配置しています。講義+演習で出された課題を実習時に意識するように促し、観察実習における観察時により深層にある課題を意識することにつなげ、理論に基づいた課題の克服を明確に意識した教壇実習を展開します。

1年後期に履修する選択必修科目は、学習指導に関する科目群、生徒指導に関する科目群、組織運営科目群、学校経営科目群、特別支援教育に関する科目群の5群を設けます。

院生は、2つの科目群を中心に履修することで、ある程度の広さをもちつつも特定分野に深まりをもちます。

院生は、自分の今後のキャリアや課題などをにらみながら科目を履修する。今後のキャリア例をディプロマポリシーで3つ例示しているが、修了後のキャリアパスにはさまざまなものが想定されるので、さまざまなケースに対応できるよう、選択必修科目を豊富に設けています

科目選択は、具体的なキャリアや課題を見据え、大学教員と相談のうえで行います。

【3】学習教育目標(1)を達成するために履修する科目一覧

区分 (選択式)	科目番号	科目名	単位	受講年次 (選択式)	学期 (選択式)	授業形態 (選択式)
必修		教育課程編成の課題と実践	2	1年次	前期	講義+演習
必修		指導と評価の課題と実践	2	1年次	前期	講義+演習
必修		教授・学習の課題と実践	2	1年次	前期	講義+演習
必修		思考・判断・表現力育成の課題と実践	2	1年次	前期	講義+演習
必修		生活指導・生徒指導の実践と課題	2	1年次	前期	講義+演習
必修		学校不適応への実践と課題	2	1年次	前期	講義+演習
必修		学級経営の実践と課題	2	1年次	前期	講義+演習
必修		学校改革の実践と課題	2	1年次	前期	講義+演習
必修		学校教育・教員のあり方の課題と実践	2	1年次	前期	講義+演習
必修		沖繩の学校と社会	2	1年次	前期	講義+演習
選択必修		特別支援教育特論	2	1年次	前期/後期	講義+演習
選択必修		特別支援教育システム論	2	1年次	前期/後期	講義+演習
選択必修		課題発見実習 I	2	1年次	前期	実習
選択必修		課題発見実習 I A	2	1年次	前期	演習
選択必修		課題発見実習 I B	2	1年次	前期	演習
選択必修		課題解決実習	4	2年次	通年	実習
選択必修		課題解決実習(特別支援教育)	4	2年次	通年	実習
自由選択		インターン実習	2	2年次	前期	実習
選択必修		課題研究 I	2	1年次	前期	演習
選択必修		課題研究 I(特別支援教育)	2	1年次	前期	演習
選択必修		課題研究 III	2	2年次	前期	演習
選択必修		課題研究 III(特別支援教育)	2	2年次	前期	演習
選択必修		授業分析・リフレクションの理論と実践	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		言語活動と協同学習	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		理数系授業づくりの理論と実践	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		授業づくりの理論と実践	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		学習指導のための教材・教具の開発と活用	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		活用力としての教科外活動	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		授業づくりと指導法の高度化	2	1年次	後期	講義+演習
選択必修		積極的生活指導・生徒指導	2	1年次	後期	講義+演習

大学院カリキュラム・マップ

【ワークシート: DP・CPの対応関係及び学習の内容・方法】

1年後期には、必修の実習科目として、まとまった2週間の実習(課題発見実習Ⅱ)を後期開始前と後期終了後に行うことで、講義+演習科目との相乗効果により学びが深まる配置としています。

2年次には、20日間の実習(課題解決実習)を行うことで、自らの教育課題のみならず、地域の教育課題の解決に向けた模索を行います。

以上、教育実習は、学卒院生のみならず現職院生も2年間で400時間を行うことで、個人の力量形成を行うとともに、勤務校、地域、沖縄県の教育課題の解決を念頭におきます。

自由選択科目として学卒院生には、学級・教科開始時からの学級経営、教科経営を学ぶためのインターン実習(40時間)を配置しており、受講を推奨しています。

課題研究(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)は、学校レベル、地域レベル、県レベルの課題を念頭に、各自がテーマを設定し、2年間かけてその解決のための研究を行う。共通科目や選択科目での学修内容を活かすとともに、自分のテーマにかかわる先行実践や先行研究を丁寧に取りこぼさず、テーマに対する幅広い理解を踏まえて自らの解決策を模索する。その成果は2年次の実習において検証し、最終的には報告書にまとめます。

以上のように、授業科目と教育実習と課題研究を密接に関係させることで、理論と実践の融合を担保します。

選択必修							
選択必修		いじめ問題への対応と課題	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		こども支援のための地域・保護者との協力関係づくり	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		特別な支援を必要とするこどもの理解と実践	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		新時代こども支援活動	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		地域と学校の在り方	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		校内研究組織の実践と課題	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		組織的意思決定マネジメント	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		教師の成長とメンタリング	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		学校安全管理	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		学校マネジメント	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		学校と地域との連携の実践と課題	2	1年次	後期	講義+演習	
選択必修		特別支援教育コーディネーター論	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		特別支援教育の教育課程・授業特論演習	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		特別支援教育・地域支援の理論と実践	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		障害児理解と教育実践・発達臨床支援	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		肢体不自由児の理解と支援	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		病弱児の理解と支援の探究	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		重複障害児の理解と支援	2	1年次	前期/後期	講義+演習	
選択必修		課題発見実習Ⅱ	4	1年次	後期	実習	
選択必修		課題発見実習Ⅱ(特別支援教育)	4	1年次	後期	実習	
選択必修		課題研究Ⅱ	2	1年次	後期	演習	
選択必修		課題研究Ⅱ(特別支援教育)	2	1年次	後期	演習	
選択必修		課題研究Ⅳ	2	2年次	後期	演習	
選択必修		課題研究Ⅳ(特別支援教育)	2	2年次	後期	演習	